

お忙しくても、約 2 分間で読めます

# ハートフル・ワード (心からの言葉)

山内公認会計士事務所

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

## 経営者への活きた言葉

子どもたちに対する食育を大人が行う 小泉 武夫 (東京農業大学教授)

1. 日本はこの半世紀で民族の食文化を捨ててしまったといっているでしょう。この間、油の消費量は 4 倍、肉の消費量は 3 倍になって、本来日本人の食文化は低タンパク・低脂肪・低カロリーだったが、高タンパク・高脂肪・高カロリーになってしまいました。その原因は、戦後アメリカが「米を食べるのをやめなさい、小麦のほうが頭が良くなる」といって、自国で余った小麦を日本に買わせました。
2. かつて日本人が心優しかった時代に食べていた食材は、実は次の 7 つしかなかったのです。①根茎②葉③青果 (果物、トマトやきゅうりなどの瑞々しい野菜) ④豆 (特に大豆) ⑤魚⑥海藻⑦米。いまこういった食材は日本の食卓から姿を消しつつありますが、これらに多く含まれているもの、それがミネラルです。ミネラルというものは大切な働きをします。ミネラルが不足すると認知症が早く出やすいと言います。また男性側の原因で赤ちゃんができにくくなる。
3. 高知県南国市は小中学校の学校給食は、10 年前から地元で採れた食材で和食を中心とした給食を食べさせてきました。その結果①病気がちの子どもがいなくなり、欠席が減った②成績がよくなった③いじめがなくなった④食べ残す子がいなくなった。外国の食材を、ただ腹を満たすためだけに好き勝手に食べていたら、愛国心や感謝する心等要するに徳性が育たないのは当然じゃないかと思えます。いま、子どもたちに対して食育を大人がしなければならないと思えます。  
(参考:「致知」2009 年 2 月号)

## ワンポイント経営アドバイス

生き残りを模索する卸業者

1. 海産物が卸売市場を経ないで飲食店や加工業者に届く、市場外取引が拡大した結果、卸売業には存在価値を高めるための取り組みが求められている。市場外取引が増えた原因の第一は、「輸入品の増大が影響している」ことにあると見られている。例えば、回転寿司のネタとなるエビ等を東南アジアで加工し、それを日本の回転寿司チェーンに直接納めるようなケースが増えている。
2. また、量販店が増え、流通経費を削減するために産地直送を進めたのも一因といえる。その結果、国内の総流通量に占める卸売市場の経由率は 1990 年代の 7 割から 6 割近くまで落ち込んでいる。卸業者の強みは、多くの産地を熟知していることや、水揚げ情報を集め、魚を評価できるノウハウがあること。それを活かすために、産直業務を代行するなど生き残りを模索する動きが出始めている。

(参考:「WEDGE」: 2009 年 3 月号)

## 経営者のための営業学

消費者を知るとは消費者の生活そのものを知ること

1. 相次ぐ工場の操業停止、企業の人員削減。こんな社会情勢を目の当たりにすれば、「会社員の収入が減り、商品の買い控えが起きる」との連想が大半だろう。ところが花王は全く別の観点でこの状況を眺め、2008 年冬に全国のホームセンターやスーパーなど約 2 万 5000 店舗で、「大そうじを家族みんなのイベントにしませんか？」の大キャンペーンを展開した。
2. 花王はファミリー層の家庭がどう変化するかに思いを巡らせた。景気が悪化すれば、企業は残業代を抑制する。父親は早く帰宅し、自宅で過ごす時間が長くなる。これは男性の家事参加を促すチャンスではないか。消費者を知るとは、消費者の生活そのものを知ることでもある。花王は過去 10 年以上にわたって大掃除に関する消費者調査を実施して、父親が参加すると清掃場所が増える傾向も明らかになっていたのだ。

(参考:「日経ビジネス」2009 年 1 月 5 日号)

## 古典に学ぶ

天分の発揮

「われわれは、一体何のために学問修養をすることが必要かという、結局は“人となる道”すなわち人間になる道を明らかにするためであり、さらに具体的に言えば、“日本国民としての道”を明らかに把握するためだと言えましょう。またこれを自分という側から申せば、自分が天からうけた本性を、十分に実現する途を見出すためだとも言えましょう」

(参考: 森信三「修身教授録抄」: 致知出版社)